

学校教師を中心とする 北陸におけるESD普及のための仕組みづくり

平成20年度地球環境基金助成金事業

北陸(富山、石川、福井)におけるESD(持続可能な開発のための教育)普及のための仕組みづくり

背景
「持続可能な開発のための教育の10年」が2005年1月から開始され、国やESDへ「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議等を中心に「持続可能な開発のための教育(ESD)」の活動が全国的に進められている。
ESDの周知普及は、右が国の実施計画の中でも初期段階の重点事項として、特に強調されている。北陸3県でもこうした取組が行われているが、ネットワーク化を図り、普及により力を入れていく必要がある。

概要
1 新学習指導要領にESDが明記されることを踏まえ、主に初等中等教育教員を対象として、市民全体にも広く、ESDの周知普及を図る。
2 北陸3県の大学、国際機関、自治体等を中心としてESD推進の知的支援母体(北陸地域ESD推進グループ)を形成し、初等中等教育へのESDの組み込み、各種市民活動やユネスコ協会の活動におけるESDプログラムの開発・実施を支援する。

平成20年度
(予定)

① ESD講座
(5回)
対象:初等中等教育
教員及び市民
20~30人程度

② ESDワークショップ
7
対象:初等中等教育
教員及び市民
100人規模

③ 学校でのESD活動
支援
・ESD出前講座(2回程
度)
・ESD研修会等への参
加

ESD(Education for Sustainable Development)とは、
・「持続可能な開発のための教育」の略。
・2002年のヨハネスブルグサミットで日本等の提案で「ESD010年(2005-2014)」を決定。
・日本では、(1)普及啓発(2)地域における実践(3)高等教育機関における取組 みを初期の重点事項として展開。

④ 連携機関(ESD推進連絡協議会)設置

- ・高等教育機関:金沢大学、県立大学など
 - ・国際機関:国連大学高等研究所(いわがなかわあきこ)のネットワーク等
 - ・自治体:富山県、石川県、福井県、市町(教育委員会、環境担当)
 - ・教育機関:学校
 - ・その他:地域住民、環境グループ、企業など
- 約20人

事務局: 大学コンソーシアム石川

平成20年度地球環境基金プロジェクト

「学校教師を中心とする北陸における ESD普及のための仕組みづくり」

事業結果概要

大学コンソーシアム石川

本事業は、平成20年度においては、以下の活動を実施することとしていた。

- ① 主として初等中等教育に携わる教員や関係者20～30人程度を対象とする、集約的なESD講座(5回)の開催。
 - ② より幅広い市民を対象とするESD普及啓発のためのESDワークショップ(1回、100人規模)の開催
 - ③ 小中高校におけるESDの実践を支援するための出前講座等の共同モデル事業の実施
 - ④ 北陸3県の大学、教育関係者、学校教師、経済界の代表、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット等によるESD推進連絡協議会の開催
- 各活動の状況は以下の通りであった。

1. ESD 講座

■第1回

開催日時：平成20年10月25日(土) 午後1時30分～4時45分

開催場所：石川県広坂庁舎2階22会議室

参加者数：20名

- ・特別講演：ESDとユネスコ・スクールの活用
文部科学省国際統括官付企画係長 田淵 敬一 氏
- ・北陸における事例発表
白山市立明光小学校：死から始まる「いのち」の授業
白山市立明光小学校 松下 浩一 教諭
石川工業高等専門学校：河北潟リテラシーによる河北潟環境教育と環境改善の取組み
石川工専 高野 典礼 講師

■第2回

開催日時：平成20年11月15日(土)午後1時30分～4時30分

開催場所：KKRホテル金沢3階孔雀の間

参加者数：15名

- ・特別講演：持続可能な社会の構築のための教員養成・研修プログラムと教材開発
—地域学(「みうら学」)の開発を通して—
国立教育政策研究所教育課程研究センター 五島 政一 総括研究官

- ・北陸における事例発表

富山市立大久保小学校：「ずっと地球と生きる」学校プロジェクト in 大久保

富山市立大久保小学校 五十嵐俊子 校長

富山県立高岡南高校：“プロジェクトS”を通した取り組みについて

～ESDを意識しないESDの実践～

富山県立高岡南高校進路指導部 渡部 隆志 教諭

富山市立中央小学校

富山市立中央小学校 寺西 外美 校長

■第3回

開催日時：平成20年11月29日(土) 午後1時30分～4時30分

開催場所：石川県広坂庁舎3階31会議室

参加者数：31名

- ・特別講演：ESDを進めるための地域の拠点づくりと教育委員会の役割

気仙沼市立中井小学校 及川 幸彦 教頭

(前気仙沼市教育委員会課長補佐兼指導主事)

- ・北陸地域からの発表

福井県大野市立森目小学校の事例：

ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成

—自ら課題を見つけ、探求し、生き生きと表現しようとする子をめざして—

大野市立森目小学校 松原 大尚(ひろひさ)教諭

国立富山工業高等専門学校事例：世界に学び地域に還すものづくり環境教育

～多文化共生・持続的社会の実現に向けた技術者の使命を学ぶための～

国立富山工業高等専門学校 伊藤 通子 先生

■第4回

開催日時：平成20年12月6日(土) 午後1時30分～4時30分

開催場所：石川県広坂庁舎2階21会議室

参加者数：15名

- ・特別講演：ESD授業デザイン

ESD学校教育研究会事務局長 長岡 素彦 氏

- ・北陸地域からの発表

ECOサイクル・プロジェクトによる連携

地球の友・金沢、ECOサイクル・プロジェクト 三国 成子 氏

学校・企業・市民組織・行政の主体間連携の課題について

金沢エコライフくらぶ 青海万里子 氏

石川県環境政策課参事 新 広昭 氏

■第5回

開催日時：平成21年1月17日(土) 午後1時30分～4時30分

開催場所：石川四高記念文化交流館多目的利用室3

参加者数：12名

特別講演：中部地方におけるESDの推進

環境省中部地方環境事務所長 市原信男氏

・北陸地域からの発表

北陸電力における環境・ESDへの取組

北陸電力地域広報部課長 植田浩平氏

みそみ小学校におけるESDへの取組

福井県若狭町立みそみ小学校教諭 谷保(たにほ)裕子氏

2. ESD ワークショップ

開催日時：平成20年11月16日(日) 午後1時30分～5時30分

開催場所：金沢エクセルホテル東急 5階ボールルーム

参加者数：29名

・基調講演

持続可能な開発のための教育の10年と我が国のESD

環境省大臣官房審議官 小林 正明 氏

持続可能な社会づくりに向けて何が求められるか

成蹊大学名誉教授 廣野 良吉 氏

・パネル・ディスカッション

司会 青海万里子 金沢エコライフくらぶ代表

パネリスト 坂本 均 ノーム自然環境教育事務所代表

高木要志男 富山市教育委員会学校教育課長

新 広昭 石川県環境部環境政策課参事

捨田利 謙 石川県立金沢錦丘高校教諭

百瀬 則子 ユニー株式会社環境社会貢献部長

3. 学校との共同モデル事業

石川県、富山県、福井県下の以下の7つの小学校、高校及び工業専門学校と共同でESD活動のモデル事業を実施した。その概要は別紙のとおりである。

国立石川工業高等専門学校

石川県立大聖寺高校

石川県白山市立明光小学校

富山県富山市立中央小学校

福井県大野市立森目小学校

福井県若狭町立みそみ小学校

金沢市立材木町小学校

4. ESD 推進連絡協議会

平成20年度においては以下の通り4回開催された。

■第1回

日時 平成20年10月3日(金) 16時～17時30分

場所 大学コンソーシアム石川 シティカレッジ教室2

議事

- 1 経過報告
- 2 検 討
 - (1)プロジェクトの全体計画について
 - (2) ESD 講座、ワークショップの進め方について
 - (3)学校への支援活動について
 - (4)その他

■第2回

日時 平成20年11月6日(木) 14時～16時

場所 大学コンソーシアム石川 シティカレッジ教室1

議事

- 1 経過報告
- 2 検討事項
 - (1) ESD 講座、ワークショップに関する進捗状況の報告
 - (2)学校への支援活動の検討
 - (3)その他次年度に向けた課題

■第3回

日時 平成20年12月16日(火) 午後2時～4時

場所 大学コンソーシアム石川 シティカレッジ教室1

議題

- 1 プロジェクトの実施状況報告
 - (1) ESD 講座、ESD ワークショップの実施状況報告
 - (2)本年度プロジェクトの会計状況中間報告
 - (3)学校への支援活動の検討状況
 - (4)その他
 - ・平成20年度環境NGOと市民の集い(平成21年1月23日、名古屋)
 - ・ESDを巡る内外の動向とユネスコ・スクールの進展について
- 2 平成21年度交付要望に向けた検討
 - (1)平成21年度地球環境基金交付要望の募集について
 - (2)平成21年度交付要望に際しての基本的な考え方について
 - (3)その他次年度に向けた検討課題
- 3 その他

■第4回

日時 平成21年2月20日(金)午後4時～6時

場所 大学コンソーシアム石川 シティカレッジ教室1

議題

- 1 平成20年度事業実施報告
 - (1)平成20年度事業実施報告書(案)について
 - (2)平成20年度会計報告書(案)について
 - (3)その他
- 2 平成21年度事業について
 - (1)平成21年度地球環境基金交付申請について
 - (2)平成21年度事業に向けた準備作業について
- 3 その他

5. その他

平成20年度においては、上記に加え、以下の活動が行われた。

- ・ESD講座とESDワークショップの発表資料を大学コンソーシアム石川のホームページで公開するための準備作業を行った。
- ・ESD講座とESDワークショップの発表資料を整理したESD資料集(案)を作成した。この資料集(案)は、平成21年度第1回ESD推進連絡協議会で検討し、要すれば追加修正した後、印刷してユネスコ・スクール関係者等に配布する予定。
- ・平成20年度環境NGOと市民の集い(平成21年1月23日、名古屋)に参加し、本事業について環境教育セッションで発表するとともに、ポスターセッションでパネル展示を行った。
- ・以下の会合等で本事業を周知するための発表等を行った。
- ・ユネスコ・スクール・シンポジウム(平成20年7月12日、東京)
- ・CIC東京 大学連合フォーラム「環境問題と大学の役割」(10月29日、東京)
- ・ユネスコ・スクールの集い・ユネスコ・スクール・ネットワーク会議(11月8日、仙台)
- ・HESDフォーラム2008(12月13日、東京)

また、ユネスコ・スクールに関し、以下の進展が図られた。

- ・富山市中央小学校がユネスコ・スクールに申請した。
- ・金沢市の11の小中学校がユネスコ・スクールに申請した。
- ・北陸地域において、さらに数校がユネスコ・スクールの申請を検討している。
- ・金沢大学が正式に「ユネスコ・スクール支援大学間ネットワーク」に加盟した。

6. 本年度活動に関する評価

ESD 講座、ESD ワークショップの講演、発表は非常に質の高い内容であり、大変有益であったと高く評価されている。それらの成果は、報告書の形にまとめられ、また、ホームページに掲載されることにより、広く活用することができる。

事業開始当初には、北陸地域にはESDという言葉すら承知している学校教師は極めて稀であったが、ESD 講座、ESD ワークショップ等を通じてESDに高い関心を持つ学校教師、大学教員、自治体職員、NGO、企業や産業界の代表等からなるESD推進コアグループが形成されたことは大きな成果と考えられる。特に、複数の教育委員会が強い関心を示すようになったことは特筆される。

また、今後の課題としては、以下の事項が挙げられる。

- ・事業の会場がすべて金沢であったため、富山県、福井県からの参加者が少なかった。今後の普及拡大に向け、富山県、福井県で事業を実施することが必要。
- ・北陸では、一部の出前講座等を除いて学校とNGO/NPO、企業との連携が少ないことが明らかになった。今後、彼らの交流の場を積極的に作ることが望まれる。
- ・当面のターゲットグループを学校教師に絞ったため、目に見える成果が表れたことは成功であった。今後は、徐々に学校のみならず公民館や児童館等での社会教育関係者の認識向上も図っていくことが望ましい。